



賀状あれこれ

浅野 純次

(経済倶楽部理事長)

▼今年の年賀状には津波、原発はじめ暗い話題を回顧した文章が多く、斜め読みしている自分に気がつき申し訳ない気がしたこと度々でした。そんな中、思わず笑ってしまった賀状のいくつかをご紹介します。

▼まずビール会社のHさん。いつも愉快な家族描写で楽しませてくれます。「龍が美女に化けて男を迷わす話は中国など多数ありますが、日本なら浦島太郎と竜宮城の乙姫様。酔わせて迷わす龍の化身は男の一種の理想ですし、鯛や平目の舞い踊りの宴会にちなんで、芸者の名前には龍の字が多いのだそうです。当家ネボ

スケ女房も辰年。ノンベ亭主が勝手に酔って迷うので龍の化身としての実力は不明です。」

▼次は秋田のTさん。「妻はこれまで亭主が部屋が暗いと直訴しても『私この雰囲気が好きなの』と一顧だにしなかったのに、秋の深まる或る日突然明かりを増やして『部屋が明るい心が豊かになった気がするでしょ!』と恩着せがましく独妻者路線を堅守しています。」とのこと。

▼私の年賀状で毎年懲りもせずレッズに言及するためか、「レッズがんばれ!」と書いてくださった賀状が急増して感謝にたえません。元バンカーのKさんから「政治・経済・レッズいずれも厳しい一年でした。今年こそ良い年にしたいもの」とありました。政治・経済と一緒になされて光栄ですが、今年の回復、どちらか選べと言われたら、レッズはもう一年、がまんしていいから、やはり政治・経済ですね。

▼巧まざるユーモアもちらほら。食品メーカー元社長のIさんから「浦和レッズのご健闘を」とありました。気持ちにはありがたいですが、日本語としてちょっと変な気がして首をひねってしまいました。変といえば「皆様、元気で新年を迎えたことと存じます」という賀状もありましたが、やはり「お」と「られ」がないと「存じます」とマッチしないのでは…。

▼ついでに元新聞記者のお二人から。どちらも昨年、病氣されたのですが、Aさんは仕事を再開したので「安心ください」、Sさんは「春には元氣になり皆さんと議論をします。もう暫く待ってください」とありました。いずれも気持ちはわかりますが、意地の悪い友人から、別に心配などしていないよ、とか、待っていると言われてもなあ、などと皮肉られかねないのでとちよっと心配しました。相手の立場に立った表現というのは難しいものです。

▼駄じゃれて面白かったのは生保のOさん。「年寄り

には教育(今日、行くところ)と教養(今日、用がある)が大事だそうなのでほけずにがんばりたい」とありました。私たちも毎週金曜日だけでも教育と教養を忘れないで一年を過すことにしましょう。警句川柳としてはKさんから「絆とは無縁の人が乱用し。乱売に迷惑顔の絆かな、ですね。」

▼最後に一目置いているYさんの直言。「漱石流に言えばこうなるでしょうか?『己の生き方は己で決める。』そんなことも許されぬ世というのは末世で、危ないから立ち退け等大きいお世話だ。：国は行動の判断の基準だけ示せばいい。大地に『なんとか区域』などの線を引くな。去る人には無条件で手を伸べ、残りたい人は勝手にさせよ。：国は、共生と自律を助けるだけの存在でいい。人生は危険と道連れ、国は口を出すな。人も国に多くを望むな。ありもしない『国益』や『成長戦略』とやらで右往左往するな。』しばし考えさせられました。共生と自律の年にしたいものです。